

平成 24 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価

平成 26 年 2 月
札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市のアイヌ施策の推進状況について、平成 24 年度札幌市アイヌ施策年次報告書を基に、札幌市アイヌ施策推進計画の施策目標ごとに以下のとおり評価する。

1 施策目標：市民理解の促進

～ 伝統文化の啓発活動の推進、教育等による市民理解の促進

(1) 24 年度事業の進捗

○伝統文化の啓発活動として、i) 小中高校生を対象にした体験プログラムの実施（参加校 43 校、参加者 2,941 人）、主に大人を対象にした体験講座やイベント（開催回数 24 回、参加者 967 人）、ii) アシリチェプノミ「新しい鮭を迎える儀式」など、季節に合わせた行事、iii) 「アイヌ&サーミ カルチャーフェスティバル」など、国際プラザ等関係機関と連携したイベント、などを計画どおり実施し、多数の市民がさまざまなアイヌ伝統文化や歴史に触れることができた。

○教育等についても、札幌市職員を対象に各種研修等を行い、アイヌ民族の歴史や文化について理解を深める取り組みを計画どおり行っており、施策目標である「市民理解の促進」を進めることができたと評価する。

(2) 23 年度事業の検証評価時の意見の反映について

○平成 23 年度の検証評価において、公共空間における情報発信や小中高校生を対象にした体験プログラムの拡充を求める意見、形式にこだわらない啓発活動の場の積極的な活用を求める意見があった。

○24 年度はこれらの意見を踏まえて、新たにさっぽろ夏まつりや雪まつりの会場、札幌駅前通地下歩行空間を会場にしたアイヌ民族の音楽演奏や刺繍等制作体験を実施。また、アイヌ文化交流センターを、南区役所や南区内の観光・集客施設等と連携した区の魅力を PR する「シーニックバイウエー推進事業」、定山溪観光協会と連携した定山溪の絶景紅葉ポイントを案内する「紅葉カップバス」の一つの拠点としている。

また、体験プログラムについても、参加校が 23 年度の 36 校から 43 校に増え、参加者数も 2,170 人から 2,941 人に増え、前年度の実績を上回っており、いずれも 23 年度の意見を反映した取組として評価する。

(3) 評価に係る付帯意見

○小中学校におけるアイヌ民族に関する授業の時間数の増加を図るべきである、という意見があり、市からは、学習指導要領において年間の授業時間数が定められており、同要領に基づく「教育課程編成の手引」を基にアイヌ民族に関する授業が実施されているため、現状では、時間数の増加は困難との見解が示された。

教育課程全体に深く関わることであるが、アイヌ民族の理解促進のため、教育の充実は重要であることから、今後も広い視野での検討が必要と考える。

2 施策目標：伝統文化の保存・継承・振興

～アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進、伝統文化活動の推進

(1) 24年度事業の進捗

○歴史に関する施策として、中央区の埋蔵文化財センターにアイヌ文化期を新たに展示するため、文化局が平成 23 年度に引き続き検討を重ね、「埋蔵文化財展示室更新基本計画」を策定した。また、アイヌ文化交流センターや駅前通地下歩行空間における「札幌の地名とアイヌ民族」紹介コーナーでの歴史に関する展示等が行われている。さらに、小学 4 年生、中学 2 年生の授業において、副読本等によりアイヌの人々の歴史と現在について教えており、これらの取り組みを通じ、アイヌ民族の歴史を市民に紹介する事業が進められている。

○伝統文化活動についても、市内の各処で（前頁の 1 (1) に示したとおり）、体験プログラム、体験講座、季節に合わせた伝統行事、関係機関と連携したイベントを実施。

アイヌ文化交流センターでは、伝統家屋や生活民具等の継続展示、上記の啓発事業、イオル事業として伝承活動に必要な自然素材を活用した体験講座（民具づくり、伝統料理調理、野山での子どもの遊び）、同センターまでの案内表示の国道設置等を計画どおり行い、センターの来館者数も 5 万人を超えるなど、多数の方が参加できる機会を様々に設け、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」を図ってきたと評価する。

(2) 23年度事業の検証評価時の意見の反映について

○平成 23 年度の検証評価において、アイヌ文化交流センターの一層の有効活用、チセを体験プログラムで活用する、という意見があった。

24 年度はこれらの意見を踏まえて、前者については、北海道アイヌ協会札幌支部主催の「インカルシペ・アイヌ民族文化祭」の会場の一つとして交流センターを提供し、ムックリ・トンコリ大会などを開催。また、南区役所や南区内の観光・集客施設等と連携した区の魅力を PR する「シーニックバイウエー推進事業」、

定山溪観光協会と連携した定山溪の絶景紅葉ポイントを案内する「紅葉カップパス」の一つの拠点としているなど、意見を反映した取組がなされていると評価する。

後者については、センターの滞在時間の制約があるため、チセの解説まで行っているケースは少ない状況であり、今後プログラムの工夫が必要と考える。

3 施策目標：生活関連施策の推進 ～産業振興等の推進、生活環境等の整備

(1) 24年度事業の進捗

○民芸品の展示販売スペースの試行設置を、札幌駅前通地下歩行空間で2回開催し、約19,000人が来場した。

○また、教育・就職・住宅・医療介護等の相談に対応する生活相談員・教育相談員を配置し、3千件を超える利用があったほか、アイヌ民族の児童・生徒に対する学習支援として、冬休み期間中に、教育関係者やボランティア等による冬季学習会を新たに実施するなど、計画に沿った取組が行われたと評価する。

(2) 23年度事業の検証評価時の意見の反映について

○平成23年度の検証評価において、児童生徒への学習支援の充実、という意見があった。

24年度はこれらの意見を踏まえて、上記のとおり、平成24年度から冬休みを利用して新たに冬季講習会を実施しており、意見を反映した取組がなされていると評価する。

4. 今後について

○札幌市には、予算等の資源が限られるなかで取組内容の一層の工夫に努めるとともに、国や北海道をはじめとする関係機関・団体との連携をさらに深めながら、今後も各施策の目標を確実に実現させることを期待する。

○なお、委員からの下記の個別意見についても適切に検討することが求められる。

- ・小学校に配布している人権ノートの掲載内容を工夫すべきである（アイヌ民族に関する授業との関連性に配慮する、人権について触れる、など）。
- ・アイヌ民族に関する一般市民の理解を促進するために、講演会等の開催回数を増やすとともに、講師についてもバラエティを持たせるべきである。
- ・産業振興を推進するため、工芸品等の展示販売スペースの設置を検討すべきである。
- ・共同利用館は老朽化が進んでいるので、対策を検討すべきである。